



2022 March

No.596

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療
患者の人権と意思を尊重します

診療3本柱
がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療
地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア
地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献
災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成
地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

感染症患者に対する地域の医療体制構築に向けて

新型コロナウイルス感染症「第6波」の感染状況について、全国各地の近況報告が連日報道されており、収束に向けた国の施策や熊本県内の今後の動向について予断を許さない状況が続いております。当初は比較的若年層の感染者が目立つ傾向にあった変異株（オミクロン株）も、その波は徐々に高齢者層にも広がり重症化リスクが懸念されるようになってきました。

人吉・球磨地域においても同様に若年層だけでなく高齢者層の感染者も増えてきており、当院を受診される高齢者に関しても入院の必要性が高く、治療に加え在宅復帰に向けた早期リハビリも導入しておりますが隔離解除後は協力医療機関への転院が必要となられる方も多く、当院だけではなく地域の協力医療機関の病床も逼迫している状況にあります。また、退院となられても元の生活に不安を抱えられる傾向にあり、何らかの支援を必要とされる方も少なくありません。

これらの状況を限られた地域の社会資源で対処していくためには、行政・医療機関・各支援事業者のシームレス（継ぎ目のない）な連携が必要不可欠です。

現在、感染症患者の支援に向けて各関係機関とのWebカンファレンスを定期的で開催し、意見交換をおこなっております。参加機関として、ひとよし在宅支援診療所、人吉保健所、増田クリニック、ひまわり薬局等にご参加いただき、新型コロナウイルスに関する勉強会、地域の近況報告、入院患者の事例検討を踏まえた退院後の在宅医療についての連携など、検討している内容は様々ですが、多角的な見解を基に地域の実情を踏まえどう対処していくべきなのか、どのような体制が必要なのか連携強化に向けて取り組んでいます。

医療福祉連携室 野々上 真一



中井良一先生、ありがとうございました!!

人吉医療センターが人吉総合病院と呼ばれ、結核病棟のあった時代から、33年の長きに渡り、呼吸器疾患の治療にご尽力いただいた中井良一先生が2022年3月をもって退職されることとなりました。

また、当院が紙カルテからPC導入、電子オーダーシステムや電子カルテ導入の際の、メーカーの方との打ち合わせでは、(訳の分からない外国語にしか聞こえない)専門用語を駆使され、そのマルチな才能で人吉医療センターのOA化にも貢献いただきました。

中井良一先生、本当にありがとうございました。

このたび定年退職を迎えることになりました。

平成2年(1990年)に転勤してきましたので30年以上もお世話になったこととなります。当初2年ぐらいの予定での赴任でしたのでこんなに長く人生の大半を過ごすことになるとは思っていませんでした。

在職中大過なく過ごすことができ、職員はじめ人吉球磨の皆様のおかげと感謝しお礼申し上げます。

赴任当時は八代からの高速道が一部対面通行でようやく開通したころでした。宮崎方面鹿児島空港へは加久藤

トンネルを通る必要がありました。大手コンビニやショッピングモールもまだありませんでした。インターネットは無くパソコン通信でしたし、TVもアナログでした。

いろいろなことが変わり病院も建て替わり名前も変わり、残念ながら水害もありましたが人吉球磨の良い思い出はこれからも変わらないと思います。ほんとうにありがとうございました。

呼吸器内科 中井 良一

五木村診療所 所長挨拶

2021年4月から五木村診療所所長を務めさせていただきました永田洋介です。2022年3月をもちまして異動となりましたのでご挨拶を申し上げます。

診療所業務では、定期外来に加え、採血検査、X線検査、エコー検査、内視鏡検査と充実した医療設備のもと、人吉医療センターとも連携を図りながら住民の皆様の健康管理に取り組んできました。

加えて、新型コロナウイルスに対する集団ワクチン接種や、施設でのワクチン接種に取り組みました。各部署の協力もあり円滑なワクチン接種が実施されました。様々な場面においても、健康を管理することはまさに総合診療そのもので、短い期間でしたが、非常にやりがいのある診療活動となりました。この経験を活かしさらに邁進してまいります。

1年間大変お世話になりました。住民の皆様、関係各位の皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。

総合診療科 永田 洋介

教えて!!片淵先生～ Vol.3 治療方針を決める病理診断 ～すみれ色と桃色が織りなすミクロの世界～

暦が彌生に変わると桃のつぼみがほころび、菜虫は蝶となり舞い、野道には可憐なすみれの花が咲きはじめます。やがて迎える桜始開の頃になると、27年前の春、アメリカでの留学から帰国してすぐに、満開の桜の人吉城跡を家族で訪ねたことを思い出します。

市町村や職場では、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんの5つの検診がスクリーニング検査(1次検査)として実施されています。例えば、大腸がん検診では便潜血が陽性である場合、子宮頸がん検診では細胞診に異常がある場合に、次の精密検査(2次検診)に進みます。大腸では内視鏡検査、子宮頸がんではコルポスコプ検査(拡大鏡診)を行い、必要であれば組織を採取します。ガラス板(縦2.5cm、横7.5cm)にのせられた数mmの組織(約4μmに薄くスライス)は、すみれ色の色素であるヘマトキシリンと桃色の色素であるエオジンで二重に染められ、その色合いで組織の構造や1個1個の細胞の変化を観察します。これは病理医という専門の医師の役割で、顕微鏡でこの組織を観察して、良性(ポリープや炎症)と悪性(前がん状態やがん)の「病理組織診

断」を下します。手術の場合も摘出された臓器などについて「病理組織診断」が行われ、多ければ標本のガラス板は数十枚にもなり、リンパ節は1個1個が転移の有無を確かめられます。私が専門とする産婦人科の病気の場合であれば、「病理組織診断」によって、手術するのか経過観察できるのか、子宮を全部摘出するのか、卵巣は残すのか、放射線治療や化学療法(抗がん剤など)を追加するのか、などが決まります。一人一人の患者さんの年齢や生活に沿った治療方針を決定するのは、間違いなく「病理組織診断」です。だからこそ、病理医は『医師の中の医師(Doctors of Doctors)』として尊敬されています。

担当の医師から検査の説明を受けるとき、血液検査や画像検査(CT、MRI、PET)と同様に、「病理組織診断」についても結果を確認することが必要です。最近、診断した病理医から直接説明を聞くことができる専門の外来のある施設もみられるようになってきました。これは治療方針を左右する「病理組織診断」の重要性を示している証でもあります。

産婦人科 片淵 秀隆

片淵先生外来 毎月 第1・3・5水曜日
要予約: Tel 0966-22-1900
(予約センター/平日時間内)

臨床研修医 修了式

3月17日（木）に卒後臨床研修管理委員会を開催し、初期臨床研修と総合診療専攻医の研修報告を行い、修了判定では令和2年度臨床研修医3名全員が研修修了となりました。

2年間の研修の中で救急医療など様々な診療科の研修に加え、豪雨災害の対応など、人吉・球磨地域での医療を経験されました。

また診療だけではなく、多職種のスタッフと交流を深め楽しい思い出もできたことと思います。これからそれぞれの場で活躍されることを心から応援しています。



臨床研修医 修了挨拶



当院で2年間研修をさせていただいた福岡出身の笹栗です。

人吉医療センターへの就職は偶然の奇跡で、田舎で高齢者が多くて救急外来が忙しく研修医が活躍できる場所を調べたら、熊本の人吉にまさにぴったしな研修病院があった！と就職が決まりました。初めての就職が人吉でした。

人吉は、患者さん、スタッフの人柄が大変良く、みんな優しく、非常に研修しやすい場所でした。他の病院の話を聞く度にここで良かったと思います。同期は僕を含めて4人で、みんな人生経験が豊富でいろいろなことを教わりました。

コロナに始まり、水害を経験し、自分が手術を受けたり、内視鏡検査を受けたり、沖永良部島や五木村の診療所で

仕事をしたり、様々な経験ができたと思います。時に優しく、時には厳しく接していただきありがとうございました。人として、医療者として、患者として成長できたと実感しています。

あっという間の2年間でした。人吉球磨で、人吉医療センターで研修することができて本当に良かったです。

来年度からは久留米大学の小児科として新しい環境での仕事が始まります。この2年間で学んだ知識や経験を最大限活かしつつ、新たな経験ができることを楽しみにしています。

大変お世話になりました。人吉が好きになったので次は家族旅行で遊びにこれたらいいなと思っています。

臨床研修医 笹栗 誠



私は基幹型研修医として当院で2年間お世話になりました。人吉球磨地域が地元であることもあり、非常に有意義な研修を送らせていただくことができました。令和2年7月の豪雨災害の時には一人の医療従事者として微力ながらも診療にあたらせていただきました。被災者の皆様には改めてお見舞い申し上げます。3県の県境拠点病院ですので、各地域からの多数の方の診療に携わらせていただきました。特に救急外来では約1500人近い患者様の対応をさせて

いただくことができました。至らぬ点もあったかと思いますが、上級医の先生はじめ、同期や後輩研修医、その他全てのスタッフの方々に助けていただきました。そして何より患者様からも教わることが多くありました。また来年度からは別の病院で経験を積み、少しでも早く一人前の医師として貢献できるように頑張りたいと思います。最後に皆様のご多幸をお祈りして挨拶に代えさせていただきます。

臨床研修医 津山 恭佑



学生時代、グルメな友人と紅葉狩り・うなぎツアーで初めて訪れた人吉。人吉城を歩いて色鮮やかな紅葉と清らかな球磨川を楽しみ、美味しいうなぎと抹茶を頂いたのが人吉との馴れ初めでした。

就職も縁あり人吉医療センターに拾って頂き、ダメ学生だった僕の新社会人・研修医生活が始まりました。人吉は先生方もスタッフの方もとても話しやすく、相談のしやすい雰囲気ではじめから何まで大変助けて頂きました。そして主に患者さんとして接した人吉の方々も気のよい方が多く、頑張りたい・勉強しなくてはと自然に思える環境でした。

水害やコロナなど人吉への試練も共に経験しましたが、研修医としてこんなに働きやすく、やりがいのある研修先に来れてよかったと感じています。沢山育てて頂き本当にありがとうございました！反省点はもっと勉強できた、もっと人吉を楽しむ事ができたのではということです。

人吉で出会った尊敬できる上級医・スタッフの皆さんの姿を目標に、これからも与えられた環境を最大限活かして貢献できるよう頑張ります。最後に、同期の津山さん、笹栗、中村太一くん、公私ともお世話になりました、楽しい研修生活とても感謝しています。

臨床研修医 石川 裕隆

地域医療実習 感想

この度の地域医療実習では、先生方の温かなご指導のもと、問診や身体診察、カルテの記載やカンファでの発表など、多くの経験を積ませて頂きました。どれも大病院では経験しにくいので、今回の実習は貴重な機会となりました。

特に印象深かったのは、訪問診療・看護や五木村診療所での実習です。病院にいと、時に、治療の過程で医師が主体であるかのような感覚に陥ってしまうことがあります。しかし、患者さんのお宅や地域の診療所に出向くと、患者さんそれぞれに生活史や価値観があり、医療はその人生を支える一要素に過ぎないことに改めて気付かされ、謙虚な気持ちになりました。医師になっても謙虚さを忘れず、患者さんの良き伴走者であれるよう心がけたいと思います。

今回の実習は私にとって、チーム医療を学ぶ良い機会にもなりました。実習の中で「医師の思考過程と、それ

を踏まえた指示が、他の医療スタッフが見て分かりやすいようなカルテ記載を心がけるように」と先生からアドバイスを頂いたことがありました。

このようなことから、医療はチームで行うものだという事に気付かされました。大学にいと、他のメディカルスタッフの業務に目を向けることは多くないですが、医療は決して医師だけで行えるものではなく、各専門職の視点があってこそ成り立つものだと感じた実習でした。

最後になりますが、ご指導頂いた総合診療科の先生をはじめ、お世話になった先生方、看護師の方、事務の方に心より感謝申し上げます。



熊本大学医学部 5年 黒崎 祥子

院内がん登録 2020 年症例集計結果

当院は、がん診療連携拠点病院（以下拠点病院）の役割の1つでもある院内がん登録を実施しています。院内がん登録とは当該施設で診断・治療を受けられた全ての患者さんのがんについての情報を登録する仕組みで、登録された情報は毎年、国立がん研究センターへ提出しています。このように各拠点病院から集められた情報から、がん診療の現状を把握し、がん医療の質の向上、がん対策の企画立案、がん患者及びその家族等への医療機関情報の提供などに役立てられています。また、当院でも自院のがん診療の把握のために同様に集計を行っています。今回は昨年8月に提出した2020年症例の集計結果をご報告します。

【登録件数】 2020年登録件数は733件（男性406件、女性327件）。前年（659件）と比較すると74件の増加となった。泌尿器科での入院加療が可能となったことに伴い、前立腺、膀胱、腎・尿路系の登録件数がそれぞれ倍増していた。その他の部位については大きな変動は見られなかった。男女比は男性が55.4%（前年49.3%）、女性が44.6%（前年50.7%）。

【患者住所医療圏】 担当医療圏の割合は85.4%であった。圏外の割合は14.6%で、その内90%が圏外であった。近県からの患者の占める割合は前年までは年々増加傾向であったが、2020年は割合、件数ともに減少しており、コロナ禍の中で県を跨いだ受診控えの影響が少なからずあった可能性が考えられた。

【年齢】 平均年齢は、全体72.2歳（前年71.5歳）、男性73.8歳（前年73.7歳）、女性70.2歳（前年69.4歳）で男女共に

高くなっており、地域の高齢化によるものと考えられる。

【部位】 登録数の上位5部位は①大腸②肺③前立腺④乳房⑤膀胱の順であった。前年、5番目であった前立腺が乳房を上回り、3番目となった。その他の部位について変動はなかった。

【主要部位別 Stage と治療内容】

【胃】 Stage I の割合が45%と高かった。治療は外科手術が多く行われており、内視鏡的手術は前年と比べ減少していた。

【大腸】 Stage 0～I の割合が47.9%と半数近くが早期がんであった。手術では81.4%が鏡視下により行われていた。

【肺】 他の部位と比べ Stage IV の割合が55.4%と高く、積極的治療を行わず、経過観察を選択する症例も多かった。

【肝】 TA(C)E が多く行われていた。外科手術の件数は前年より減少していた。

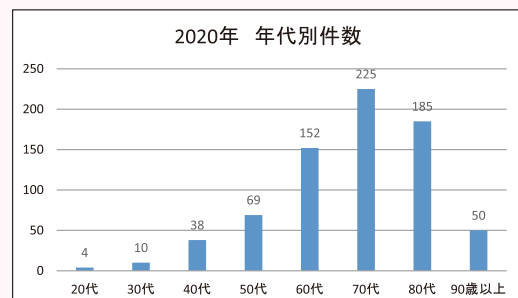
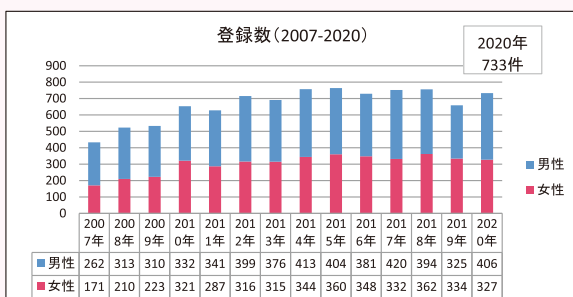
【乳房】 Stage IV の割合が11.9%と前年（3.7%）より増加しており、発見経緯別でも「その他（自覚症状によるものを含む）」が38.9%→45.8%と増加、逆に「がん検診・健康診断・人間ドック」が44.4%→30.5%と減少していた。

泌尿器科については2019年度までは非常勤医師による外来診療のみであったため、手術の必要な腎、尿路系の癌については他医療機関へ紹介をしていましたが、2020年4月より常勤医師2名が加わり、更なる地域完結型医療が可能となりました。

診療情報管理室では今後も当院のがん診療に少しでも寄与できるようなデータの構築、提供に努めていきたいと思ひます。

診療情報管理士 川内 広美

2020年院内がん登録集計結果



新型コロナウイルス感染症による院内クラスター発生施設へ応援勤務をしてみいました。

新型コロナウイルス感染症による院内クラスター発生施設へ応援勤務をしてみいました。

全国的に急激な感染者数の増加のため、普段から新型コロナウイルス感染症を診療していない病院や施設でクラスターが発生した場合にその施設内での感染防御の見直しや感染対策の徹底を行い、当該施設で診療を継続するようになってきています。

今回、JCHO A施設のクラスターにより30名以上の職員が感染あるいは濃厚接触者となり、災害時と同じで突然のマンパワー不足となっていました。

新型コロナウイルス感染症の感染力の強い期間をレッドエリア、感染力の低下してきている期間や発症していない濃厚接触者の期間をグレーエリア（イエローエリアという施設もある）、感染症にかかってない状態または治癒した状態をグリーンエリア等にわけます。

応援施設は、2つのフロアにレッドエリアがある状態を1つのフロアに集約していきっている状態でした。そのレッドエリアのあるフロアの主にレッドエリアへ勤務しました。

他施設へ応援勤務へ行くことで得られたことは、自施設では、標準防護着（マスク、帽子、ガウン、アイシールド）をしていますが、知っているスタッフの中で勤務しているので、『誰かわからない。』という障害



を感じる事は、全くなかったのですが、患者様・スタッフ共に知らないところへ突然入ると『全く誰かわからない。』を体験し、当施設へ入院される患者様の『誰かわからない。』、『不安感』は、こういうことなのかと強く実感しました。

この得られた体験を生かして、当施設のスタッフとも共有し、患者様へスタッフの識別できる工夫を形にしていきたいと思います。

看護師 愛甲 宣代

臨時の医療施設ということで医療施設の立ち上げ段階から携わらせて頂き病棟の看護師をしているだけでは得られない経験をさせてもらいました。

また、コロナウィルス感染症の看護を通して、PPE着脱等といった感染症対策も改めて勉強を行うことができました。

看護師 山内 優輝

2022年度診療報酬改定から ～在宅医療とACP～

2022年度の診療報酬改定において、人生の最終段階における適切な意思決定支援を推進する観点から、当該支援に係る指針の作成が在宅療養支援診療所及び在宅療養支援病院の要件に追加されました。具体的には、在宅療養支援診療所及び在宅療養支援病院は、厚生労働省の「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等の内容を踏まえた適切な意思決定支援に係る指針を作成することが要件となります。

今までも、在宅を担う多くの診療所や病院では、患者さんや患者さんの家族との信頼関係を築きながら、最後の時をどう迎えたいのかを話し合い、その人らしく最期を迎えることができるよう取り組まれてこられたと思いますが、2022年度からは、その取り組みをより具体的に明確にしなければなりません。

また、今回の改定では地域包括ケア病床の入院患者の2割以上は自宅等からの患者を受けなければならないなど、在宅医療を担う診療所や病院へのサポート体制や仕組みの強化が求められているのではないかと感じています。

人吉医療センターでは、「医療を受ける、受けない」、「自分がどうしたいのか、どう生きたいのか」、患者さん自らが決定



できる環境を提供することを目的に、数年前よりアドバンス ケア プランニング（ACP）を普及させるべく取り組んでまいりました。

大変重く、深いテーマではありますが、まずはパンフレットを手に取り、どんな選択肢があるのかを知っていただくだけでもいいと思います。

これから、意思決定支援の指針を具体的に作成される医療機関や施設、またアドバンス ケア プランニングを知りたい個人の方と一緒に、そのひとらしく生きることができる地域作りに貢献して参ります。

ACPに関するご意見やご要望、お尋ねなど、お気軽にご連絡ください。

医療福祉連携室 岡本 理恵

第2回診療放射線部門における新型コロナウイルス感染症対応研修を受講して

新型コロナウイルス感染症の診断時には放射線検査が行われており、これら検査時の感染対策が重要となります。その感染対策の質を確保する目的の為、診療放射線部門の新型コロナウイルス感染症に対する感染対策研修がWEB開催され受講しましたので報告いたします。この研修会には全国の国立病院機構並びに、JCHO病院など多数の病院から放射線検査部門に携わるコメディカルが参加しておりました。

研修では7施設から、COVID19に感染した患者の検査時の対応方法について紹介がありました。个人防护衣の装備や着脱に施設間の大きな違いは見られませんでした。施設の構造上ゾーニングが困難な施設では診察室からCT室等への患者移動時に車椅子アイソレーター（ビニールカーテンにて仕切られている）を使用し患者のプ

ライバシー保護と感染対策を行う施設やCT室の換気の為にクリーンパーテーションなるものを利用して換気効率の向上を図る施設など、施設毎の課題に対しての工夫が見受けられました。

当院でもウイルスの不活性化を目的に紫外線照射装置の利用やボックス型CTを利用するなどして感染対策に努めておりますが、他施設の対応方法を知り見識を広げる良い機会になりました。

グループワークでは前述したように様々な施設からの多数の参加があり各施設の課題などについて議論を交わし現場でも役に立つ意見や、色々な考え方にふれることができてとても有意義なものとなりました。今回得たものを今後のそれに生かして参りたいと思います。

画像診断センター 甲 亜由美・西迫 正悟

看護学生就職セミナーに参加しました

看護部では新人看護職員の新規獲得に向け、より多くの看護学生に当院の魅力をお伝えし、興味を持っていただくことを目的に、県内外の就職説明会や各学校へのWeb配信による説明会を計6回実施しました。

これまでは資料配付し説明会を開催している施設が多数でしたが、最近では視覚に訴え、より魅力を伝えられるよう、スライドを用いたプレゼンや、横断幕・写真の展示等様々な工夫をしている施設が増えています。当院もウェルカムボードを設置し、説明はPowerPointでのプレゼンに加え、動画視聴などの準備を行い出展しました。

コロナ禍での開催で、感染防止対策を充分にとりブース内6名着座での説明でしたが、30分程度の説明を切れ目なく実施し、説明後の質問等や待ち時間での対話もあり実り多い看護学生との一時を過ごしました。当院の学生への周知度は「名前は聞いたことがある。どの辺かは

分からない。どんな病院かは知らない。」といった声が聞かれました。又、出展準備段階から、他施設の会場設営やプレゼンのスタンバイ状況等、新規採用獲得に向けての工夫について大変参考になりました。

今後も県内だけでなく県外、特に鹿児島県・宮崎県の看護学生の就職セミナーにも参加し、南九州3県県域の急性期医療を担っている当院の魅力を知っていただくことで、新規看護職員採用獲得に繋げていきたいと実感いたしました。

病院見学会やインターンシップも常時開催中で、一緒に働く看護師を募集しています。

9階病棟看護師長 白川 幹子



おひなまつりご飯



3月3日、桃の節句ともいわれ女の子の健やかな成長を願う行事です。今年も栄養管理室からはひな祭りの行事食を提供しました。

ちらし寿司をメインに鶏肉の梅照り焼き、お浸し、菜の花汁、ひなあられを提供致しました。あられの3色には所以があるようで、桃色は「魔除け」、白色は「清浄・純潔」、草色は「健やかな成長」の意味があり、厄除けや女の子の健やかな成長を願う食べ物として3色あられや3色のひし餅がこの時食べられています。春の訪れを感じさせるカラーはひな祭りにぴったりですね。

これからの時期は、梅、桃、菜の花、桜、そして新緑と外の景色も鮮やかになっていきます。どんな状況下でも植物は四季を感じ、その変化を私たちに告げてくれています。

入院中にその変化を食事で告げていけるよう、栄養管理室では今後も行事食の提供を続けてまいります。

栄養管理室 中村 利枝

地域協力会園芸部のみなさん ありがとうございます

人吉医療センターの正面駐車場脇には、癒しのスペースがあります。

人吉医療センター地域協力会園芸部のみなさんによって手入れされた花壇に今年も色とりどりの花が咲いています。

中でも、花壇の中でひときわ華やかな色で目を引く黄色いパンジーの花言葉の一つは、「つつましい幸せ」だそうです。

連日、心痛いニュースが報道されている今こそ、「つつましい幸せ」を大切に、日々感謝して過ごしたいと思います。

